

地質情報展しずおか 体験コーナー -自分だけの化石レプリカを作ろう!-

利光 誠一¹⁾・坂野 靖行¹⁾・中島 礼¹⁾²⁾・奥山 康子¹⁾・中澤 努¹⁾・河村 幸男³⁾
谷田部信郎⁴⁾・新津 節子⁴⁾・中島 和敏³⁾・川畑 晶³⁾・名和 一成³⁾

7回目となる地質情報展の化石レプリカ作製体験コーナーの素材は、前回に続き北海道の白亜系産のアンモナイト (*Mesopuzosia pacifica* Matsumoto: GSJ F8546) です。

これまでの地質情報展における化石レプリカ作製体験コーナーでは、個人対応のみで企画運営してきました。今回の「地質情報展しずおか」では、事前のPRのおかげで、開催初日に会場に近い2つの小学校から6年生の校外学習の一環として合わせて8組(計272名)の申し込みがあり、初めて団体としての受け入れ体制をとりました。

従来の個人ベースでの対応では、4~5人の指導者が各々1~3人ほどの体験希望者を相手に化石やレプリカ作製方法などについて説明しながら進

めていき、石膏練和およびビニルシリコン型への流し込みに10~15分の作業時間を要して、その後の石膏硬化に要する30分ほどは会場内のいろいろなブースの見学をしていただいていた。そしてその後にはスタッフが型から取り出した化石レプリカをラベル等とともに袋詰めしたものをセットとして各作製者にお渡しして、記念に持ち帰っていただくという作業行程でした。団体に対応する場合にはこれまでになく作業行程の効率化が求められますので、今回は1組30数名ごとに対して一度にまとめて事前解説を行い、実際の作業においては6人の指導者が各自6名程度の生徒を相手に作業の補助をするという方法をとりました(写真1)。限られた時間内での化石レプリカ作製でしたが、幸いレプリカ作製行程のうち、練和した石膏をビニルシリコン型に流し込む作業(1学級20分程度)を終えた後、完成した化石レプリカの受け渡しに関しては、生徒が学校に戻った後に先生がまとめて取りに来ていただくことが可能でしたので、地質情報展会場での見学時間を有効に使っていただくことができ、272名の生徒全員(欠席者の分は担任の先生が代理で作製)が各自のオリジナルの化石レプリカを作製することができました。

上記の2団体を無難にこなした後、従来の個人ベースでの対応を行いました(写真2)、これに関しても3日間の合計で369名という予想を大幅に上回る体験参加者を得ました。我々スタッフに加え、静岡大学からの学生スタッフの応援(6名)で何とかこの数をこなすことができましたが、今回初めて



写真1 豊田東小学校6年生を相手に化石レプリカ作製のための事前解説の様子(静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ6Fギャラリー)。各組(35名程)を相手に全体説明の後にレプリカの作製指導を行いました。

1) 産総研 地球科学情報研究部門
2) 日本学術振興会 科学技術特別研究員
3) 産総研 地質調査情報部
4) 産総研 地質標本館

キーワード:地質情報展しずおか, 化石, レプリカ作製, 体験型イベント, 校外学習



写真2 学生スタッフによる化石レプリカ作製指導の様子。指導スタッフ4名が各自2人程度の子供を相手に化石やレプリカ作製に関するレクチャーをしながら作業を進めました。

となる団体の受け入れに加え、個人体験者数も予想を大幅に上回ることとなり、これに対応すべき我々の受け入れ側の限界との狭間でうれしい悩みを抱えることとなりました。今後もできる限り地質情報展見学者の希望をかなえながら、魅力ある体験コーナーとしていくために努力していきたいと考えています。

TOSHIMITSU Seiichi, BANNO Yasuyuki, NAKASHIMA Rei, OKUYAMA Yasuko, NAKAZAWA Tsutomu, KAWAMURA Yukio, YATABE Nobuo, NIITSU Setsuko, NAKAJIMA Kazutoshi, KAWABATA Sho and NAWA Kazunari (2004): A special section for an experience of a making fossil replica in "the Shizuoka Geologic Exhibition".

<受付：2003年12月1日>